

世界主要農薬メーカーの動向 —2007～2013—

SHIBUYS INDEX 研究会 代表

澁谷 成美 (しぶや しげよし)

本誌 2002 年 7 月号および 2007 年 10 月号に海外主要農薬メーカーの動向を報告したのに続き、それ以降の農薬業界についてまとめた。

2000 年までは会社の吸収・合併がめまぐるしく行われていたが、その後の主な動向は品目の売却や交換等に変わってきている。世界の農薬トップメーカー 20 社の順位は表-1 の通りで、かなりの会社名が消え、過去のものとなっている。

なお、本記事については下記の点に留意されたい。

(1) 記載年度は文献に出てきた年であったり、実施完了の年であったりするので、1 年程度幅のあることを理解されたい。

(2) 大手の会社についての記載はその農薬部門につ

いてであり、会社全体ではないので会社名が現在も残っている場合がある。

(3) 遺伝子工学利用の種子関係、防疫剤、工業用防黴剤については原則として省いた。

(4) 会社の動きがわかりやすいように品目の買収・売却を入れたが、主要品目の日本における登録時期についても一部掲載した。

(5) 薬剤名は一般名をできるだけ記載し、わかりやすいものとした。薬剤の詳細については SHIBUYS INDEX-2014-を参照されたい。

(6) 新しい動向など、要訂正箇所があれば筆者までご連絡いただきたい。

表-1 Leading Crop Protection Companies in 1980, 1990, 2010, and 2012

Sales Rank	1980	1990	2000	2010	2012
1	Bayer	※ Ciba Geigy	Syngenta	Syngenta	Syngenta
2	※ Ciba Geigy	※ Zeneca (ICI)	Monsanto	Bayer	Bayer
3	※ Shell	Bayer	※ Aventis	BASF	BASF
4	Monsanto	※ Rhone-Poulenc	BASF	Dow	Dow
5	※ Rhone-Poulenc	DuPont	Dow	Monsanto	Monsanto
6	※ Zeneca (ICI)	Dow	Bayer	DuPont	DuPont
7	BASF	Monsanto	DuPont	Makhteshim-Agan	Makhteshim-Agan
8	※ Hoechst	※ Hoechst	Sumitomo	Nufam	Nufam
9	※ Eli-Lilly	BASF	Makhteshim-Agan	Sumitomo	Sumitomo
10	DuPont	※ Schering	FMC	FMC	FMC
11	※ Stauffer	※ Sandoz	※ Rohm&Haas	Arysta	Arysta
12	Dow	※ Shell	Nufam	UPL	UPL
13	※ Union Carbide	※ Cyanamid	Griffin	Cheminova	Cheminova
14	※ Cyanamid	Sumitomo	Kumiai	Ishihara	Ishihara
15	FMC	FMC	Sankyo	Nihon Nohyaku	Kumiai
16	※ Rohm&Haas	※ Rohm&Haas	Hokko	Nippon Soda	Nippon Soda
17	Kumiai	Kumiai	Ishihara	Nissan	Mitsui
18	※ FBC	Sankyo	※ Takeda	Sipcam	Nihon Nohyaku
19	※ Schering	Nihon Nohyaku	Nissan	Mitsui	Sipcam
20	※ Chevron	Makhteshim-Agan	Nihon Nohyaku	Kumiai	Nissan

Note : ※ : Companies no longer active in the crop protection sector are indicated (Phillips McDougall) .

ア ン バ ッ ク (米) [現会社はアメリカン・バンガード(米)]

2007年	ケムチューラ(米)より殺菌剤テラクロール(キントゼン/PCNB)を買収
2008年	ベラント(米) [住友化学(日)の子会社] より殺虫剤オーセン(アセフェート)の米国事業を買収 [米国以外の権利はアリスタ・ライフサイエンス(日)が保有]
2008年	アセト(米)より殺虫剤ホレートの事業を買収 [2005年にBASF(独)より買収していたが、アセト(米)がジェネリック品を取扱い、アンバック(米)使用のクローズドシステムを利用するので問題化]
2010年	カネシヨウ・ソイル・トリートメント(ベルギー)より殺菌剤ダゾメットの供給を受け、米国で販売する
2010年	バイエル(独)より殺虫剤アズテック(テブピリムホス+シフルトリン) [米国登録あり] を買収(12月末)
2012年	ティラテック(米) [生物農薬関連会社] と合弁会社エバンス・テクノロジー Envance Technologies(米)を設立(> 50%) (12月)
2013年	ティラテック(米)の29.5%を買収
2013年	モンサント(米)と除草剤インパクト(トブラメゾン)で販売協調

イ サ グ ロ (伊)

2007年	子会社イサグロ(米)が水稻除草剤ストラダ(オルトスルファミロン)の登録を取得した。販売はライスコ(米) [プロフィコール(コロンビア)とウエストレード(米)の合弁会社] が行う
2009年	FMC(米)にベト病用殺菌剤ベナラキシル(商品名ガルベン)を売却した。[世界で50ヶ国登録あり] [Single isomer version of benalaxyl-Mは保有]
2010年	ケミノバ(デンマーク)に殺虫剤ロゴール(ジメトエート)事業を売却
2011年	マクテシム・アガン(イスラエル)に殺虫剤キララキシル(ベナラキシル・M)の開発販売権を与えた(北米, その他)
2012年	ケムチューラ(米)と合弁会社イセム(Isem: ブラジル)を設立 [除草剤オルトスルファミロンを販売]
2012年	子会社イサグロ・USA(米)が生物殺菌剤トリコデルマ剤(パイオタン)の販売権をアグラクエスト(米)に与えた
2013年	アリスタ・ライフサイエンス(日)に殺菌剤テトラコナゾールを15年間供与することを承認(フルオサストロビン混合剤用)
2013年	持株会社がゴーワン(米)に買収されたためゴーワン(米)と協調

F M C (米)

2008年	クミアイ化学(日)よりトウモロコシ・大豆用除草剤カデット(フルチアセット・メチル)の販売権を獲得 [現在同剤はクロンプトン(米)が棉の落葉剤として販売中]
2009年	ウォーターバリー(米)より、防疫剤等(エアゾル、毒餌、煙霧剤)の販売権を得た(北米)
2009年	イサグロ(伊)より、ベト病用殺菌剤ベナラキシル(商品名ガルベン)を買収 [世界で50ヶ国登録あり]
2010年	クミアイ化学(日)より、トウモロコシ・大豆用除草剤フルチアセット・メチルのすべての権利を買収(6月15日)
2011年	バイエル(独)より殺虫剤ロブラール(イプロジオン)とスボルタック(プロクロアズ)を買収 [ヨーロッパを除く] [ロブラールは日本も除く]
2012年	CEV(Conswmo em Verde・ポルトガル)より、生物殺菌剤ルーピン種子ポリペブタイド(うどんこ病に効果)の開発販売権を買収
2013年	ベルヒム(ベルギー)より殺菌剤パリアフェナートとの混合剤の開発権を獲得(北米, ラテンアメリカ等)

ケ ミ ノ バ (デンマーク)

2007年	ケセラグロ(ハンガリー)を買収(50%以上)
2008年	ステラー(独) [売上げ7500万ユーロ, 従業員190] の株50%を買収し、代表権のある役員を派遣
2008年	合弁会社バイテック・ケミカル(デンマーク) [ダウ・アグロサイエンス(米)と50:50] を100%子会社にした
2008年	クロップ・テック(コロンビア)を100%子会社とし、ケミノバ・コロンビア(コロンビア)と改称
2009年	ステラー(独) (2008年に50%の株を買収)の株をさらに25%買収 [\$ 13.4 million] し、75%子会社にした [なお、5年以内に100%にするオプション付]
2010年	子会社オスプレイ(豪)がアリスタ・ライフサイエンス(日)の独占的ディストリビューターになった(豪とニュージーランド)
2010年	イサグロ(伊)より殺虫剤ロゴール(ジメトエート)事業を買収
2010年	アリスタ・ライフサイエンス(日)の品目をスペインで販売する権利を得た [除草剤セレクト, 生物殺虫剤シディア・ポモネラGV等]
2010年	アリスタ・スロバキア(スロバキア)とアリスタ・チェコ(チェコ)にケミノバとその子会社ステラー(独)の製品を販売させることにした
2011年	デブジェン(ベルギー)の殺線虫剤デブガード(イプロジオン)のイタリー, ギリシャ, ポルトガルでの販売権を得た
2011年	ステラー(独)の残りの株25%を買収(100%子会社となる)。会社名ケミノバ・ドイツ(独) (1月)
2012年	BASF(独)より、殺菌剤ソプラン(クレソキシムメチル)の米国における独占的販売権を得た

ケ ム チ ュ ー ラ (米)

2007年	アンバック(米)に殺菌剤テラクロール(キントゼン/PCNB)を売却
2008年	タミンコ・クロップ(ベルギー)より、殺菌剤チウラムの独占的供給を受けることになった
2008年	ベノミックス(米)とのクモ毒利用殺虫剤の共同開発は期間が延長された

2009年	ノーラック・コンセプト(カナダ)とエンゲージ・アグロ(カナダ)をカナダ東部のディストリビューターに、UAPカナダ(カナダ)をカナダ西部のディストリビューターに任命。[種子処理剤]
2009年	破産法11条の適用を政府に申請。事業は継続し、再建の予定
2010年	事業基盤強化のために応用開発センター(中国・南京)を設立した
2010年	クミアイ化学(日)より導入した棉用落葉剤フルチャセットメチルがFMC(米)に売却されたのにもない、FMC(米)より原体を購入することになった
2010年	農薬部門をケムチューラ・アグロソリューション(米)とし、コネチカット州に移転した

ケムチューラ・アグロソリューションズ(米)

2010年	米国連邦破産法の適用から脱し、NY証券取引所に再上場(11月)
2012年	イサグロ(伊)との合弁会社イセム(伊)を設立。[オルトスルファミロンを販売]
2012年	アリス・ライフサイエンス(日)に殺虫剤デミリン(ジフルベンズロン)のアフリカにおける販売権を与えた
2013年	↓ 農薬事業部門の売却を検討中

ゴ ー ワ ン (米) [現会社はゴ ー ワ ン ・ ホ ー ル デ ィ ン グ (米)]

2008年	ダウ・アグロサイエンス(米)より殺菌剤ゾキサミドを買収
2008年	子会社サリアフ・ゴ ー ワ ン (伊) [シプカム(伊)が50%保有] の品目導入強化のため子会社マルガリータ・インターナショナル(ポルトガル)を使って、シプカム(伊)の持ち分35%を買収し、マルガリータ・インターナショナル(ポルトガル)35%、シプカム(伊)15%とした
2009年	日本農薬(日)の子会社ニチノー・アメリカ(米)より、除草剤ピラフルフェンエチルの販売権を得た
2010年	日本曹達(日)より、ネオニコチノイド系棉用殺虫剤イントルダ(アセタミプリド)の米国における独占の販売権を得た [2002年にデュボン(米)が権利を得て米国で登録を取得した品目]
2010年	日本曹達(日)より、殺虫剤コンファーム(テブフェノジド)の米国およびカナダの販売権を得た
2010年	クミアイ化学(日)植調剤プロヘキサジオン・カルシウムを芝生用に米国で登録取得
2010年	ダウ・アグロサイエンス(米)より、殺虫剤エムピード(オレイン酸カリウム)と除草剤シッセ(ペラルゴン酸)を買収
2011年	アグロ・テクノロジー(チリ)を買収
2011年	SDS バイオテック(日)より、水稲用除草剤ベンゾピシクロンの開発、登録、独占の販売権を獲得した
2011年	ダウ(米)より、殺菌剤メプセルジノカップのライセンスを受けた [米国のみとみる]
2012年	大塚アグリテクノ(日)より、殺ダニ剤アカリタッチのカナダでの販売権を得た
2013年	↓ イサグロ(伊)の持株会社ピエメ(伊)が新設した会社バフジエス(伊)の49%を保有することになり、イサグロ(伊)と協調することになった

シ プ カ ム (伊) (1946年設立)

2007年	子会社シプカム・アグロ(ブラジル)をシプカム・イサグロ・ブラジル(ブラジル)に改称
2007年	子会社シプカム・パシフィック(豪) [オーストラリア7位の販売会社] の株25%を住友商事(日)に与え、住友商事(日)の子会社サミット・アグロ(豪)の業務と保有資産を受継いだ
2008年	日本農薬(日)が子会社シプカム・パシフィック(豪)に資本参加(6%)。今後は麦用除草剤エコパート(ピラフルフェン・エチル)等に期待
2008年	子会社サリアフ・ゴ ー ワ ン (伊) [ゴ ー ワ ン (米) と 50 : 50 保有] 強化のため、自己の持分35%をゴ ー ワ ン (米) の子会社マルガリータ・インターナショナル(ポルトガル)に譲渡した
2008年	合弁会社アドバン(米) [三井物産(日)と2005年に設立] を100%子会社とした
2008年	合弁会社ビスキム(伊) [イサグロ(伊)と50 : 50 保有] [殺菌剤クロロタロニル製造販売] を100%子会社とした
2008年	子会社シプカム・アグロ(米)の本社をノース・カロライナのトライアングルに移した。これは、子会社アドバン(米)が三井物産(日)との合弁を解消(2008年9月)し、芝生、園芸分野に特化したことと、子会社ソストラム(米)が、防疫剤や工業用殺菌剤に特化したためである
2008年	子会社シプカム・アドバン(米)をシプカム・アグロ(米)とアドバン(米)およびソストラム(米)の3社で設立した
2009年	子会社シプカム・アドバン(米)は、アグロソース(米)より、殺菌剤ファイヤーウォール(ストレプトマイシン硫酸塩)の販売権を獲得
2009年	子会社シプカム・アドバン(米)が、ナチュラル・インダストリーズ(米)の生物土壌殺菌剤アクチノペート(ストレプトマイセス・リディカス・ストレイン WYEC-108)の独占的ディストリビューターに任命
2009年	中国の上海地域の投資者と合弁会社を設立して、シプカム・アグロ・チャイナ(中)を設立
2009年	東京に、事務所を設立した
2010年	子会社シプカム・アドバン(米)がイサグロ(米)より生物農薬である土壌殺菌剤テネット(トリコデルマ・アスペリウム・ストレイン ICC-012 + トリコデルマ・ガムシル・ストレイン ICC-080)のディストリビューターとなった [2月米国登録取得]
2010年	プロフィタ(独)の株を少量買収し、生物殺菌剤コンタンスと生物殺線虫剤バイオアクトについて北米、南米、オーストラリア、中国での販売権を得た
2010年	ダイゾウ・ベリリー(中国)の株式を少量取得した [ジェネリックの合成に利用の予定]

2011年	合弁会社シブカム・イサグロ(ブラジル)[2006年50:50で設立]のイサグロ分をUPL(印)に売却してシブカム・UPL(ブラジル)とした。これにより、シブカム・イサグロ・インターナショナルは解散
2011年	住友商事(日)と提携。スミアグロ・ヨーロッパSH(英)とシブカムSH(伊)を設立し相互に出資の予定 [住友商事はフランス、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、チェコ、ブルガリアに強く、シブカムはイタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、イギリスに強い]
2011年	シブカム・アグロ(中)を設立 [2012年より販売を計画]
2012年	↓ 子会社シブカム・ヨーロッパ(仏)の株を日本農業(日)とスミアグロ・ヨーロッパ(英)[住友商事の子会社]に10%ずつ与えた

シンジェンタ (スイス)

2007年	MSD(米)より殺虫・殺ダニ剤アバメクテンの製造権を買収 [1997年販売権を買収済]
2008年	デュボン(米)と協調(新剤提供)に同意。シンジェンタ(スイス)はトウモロコシ用除草剤メソトリオンを提供し、混合剤の開発を認める。デュボン(米)は、新殺虫剤シアジビル(シアントラニプロール)を提供し、単剤・混合剤の開発を認める
2008年	ローム&ハース(米)の子会社アグロフレッシュ(米)と植調剤1-MCPの共同開発スタート [2002年に熟期調節剤として米国登録を取得しているが、乾燥防止およびストレス予防分野開発]
2009年	アグロスター(ブルガリア)[農業と種子の販売会社]を買収し、シンジェンタ・ブルガリア(ブルガリア)として設立(1月1日)
2009年	サークル・ワン・グローバル(米)より、生物殺菌剤アフラ・ガード(アスベルギルス・フラバス)を買収。2002年にUSDAよりライセンスを受け、2004年に米国登録を取得
2009年	マクテシム・アガン(イスラエル)に、殺菌剤アゾキシストロピンを供給する契約を締結 [2008年の売上げ\$1,000 millionで2014年に特許が切れる。世界100か国で120作物に登録あり]
2010年	シンジェンタジャパン(日)が農業事業と種子の子会社シンジェンタシード(日)統合(7月)
2010年	サルティーゴ(独)[15年前から原体合成で提携]に投資(\$67 million)
2010年	ラリス(印)に殺菌剤アゾキシストロピンを供給することとした。なお、殺菌剤ヘキサコナゾールをラリス(印)から継続して供給を受ける
2010年	プラント・ヘルスケアー(米)と協調し、植調剤ハルピンの混合剤を開発する
2010年	アリスタ・ライフサイエンス・ノースアメリカ(米)に除草剤クロジナホッププロバルギルを供給して除草剤フルカルバゾリン・ナトリウムを受け混合剤を開発することに同意した
2010年	ニューファム(豪)が殺菌剤アゾキシストロピンとシプロコナゾールをブラジルで販売することに合意
2011年	マローン・バイオ(米)の生物殺菌剤リガリア(イタドリ)の類の抽出物:2008年US登録取得)の独占的販売権(欧州、アフリカ、中東)を獲得した
2011年	全農(日)に殺虫剤スブラサイド(DMTP/メチダチオン)を売却(日本の権利)(9月)
2011年	パスツーリア・バイオサイエンス(米)より、芝生用殺線虫剤エコネム(パスツーリア・ウサチ)の独占的販売権を買収した
2012年	デュボン(米)より、芝生用殺虫剤 Advion/Acelepryn(クロラントラニプロール)の販売事業を買収した
2012年	パスツーリア・バイオサイエンス(米)を買収(生物殺線虫剤を開発中)
2012年	ノボザイムス(デンマーク)より、生物殺菌剤タエグロ(パチルス・ズブチリス)の独占的販売権を買収
2012年	デュボン(米)の芝生、家庭園芸用事業を買収
2013年	デュボン(米)の殺菌剤オキサチアピプロリンのライセンスを得た。一方、殺菌剤ソラテノール(ベンゾペンジフルピル)の開発権を与えた
2013年	クマイイ化学(日)に殺菌剤コラトップ製品4剤(単剤)の販売権を移管した(系統販売のみ)
2013年	↓ アリスタ・ライフサイエンス(日)とインドで協調 [殺菌剤キンスタ(アゾキシストロピン)殺ダニ剤バリド・X(プロバルギット/PPPS)等の販売]

ダウ・アグロサイエンス (米)

2007年	デノシル(印)[100%子会社]をダウ・アグロサイエンス・インディア(印)に改称
2008年	親会社ダウ・ケミカル(米)がローム&ハース(米)[スペシャルティ・ケミカル会社]を買収に同意 [農業部門は2001年に買収済]。これにより売上高2兆円という世界最大級のスペシャルティ・ケミカル企業になる。但し、買収後も社名は残すことで同意 [→2009年4月買収]
2008年	合弁会社バイテック・ケミカル(デンマーク)[ケミノバ(デンマーク)と50:50]の特株すべてをケミノバ(デンマーク)に売却
2008年	ゴーワン(米)に殺菌剤ゾキサミドを売却
2010年	日産化学工業(日)に殺菌剤グレートム(チフルザミド)事業を売却(1月)[世界の権利]
2010年	日本曹達(日)に殺虫剤ロムダン/ミミック(テブフェノジド)事業を売却(3月31日)[世界44か国で登録保有]
2010年	ゴーワン(米)に殺虫剤エムビード(オレイン酸カリウム)と除草剤シーセ(ペラルゴン酸)を売却
2011年	ゴーワン(米)に殺菌剤メチルジノカップのライセンスを供与 [米国のみとみる]
2012年	インドフィル(印)[k.k.Modi Groupの会社]に殺菌剤マンゼブのヨーロッパ事業を売却した
2013年	↓ Meiji Seika ファルマ(日)と新規殺菌剤(穀物、野菜、果樹用)の共同開発契約を締結(販売はMeijiが日本、韓国、アジア。ダウが他地域。EU申請は2014年、日本申請は2015年を予定)

デュボン (米) [1915年設立]

2007年	UPL(印)に殺ダニ剤ベンデックス(フェンブタチン・オキシド)[子会社グリフィン(米)の取扱品目]と殺菌剤スーパーチン(水酸化トリフェニール錫)を売却した [世界の権利]
2007年	マローン・オーガニック(米)[生物農薬研究販売会社]と新剤開発で提携した [デュボン(米)が発見した自然物質を生物農薬として実用化する]
2007年	マクシテム・アガン(イスラエル)に除草剤フルオメツロン [子会社グリフィン(米)取扱品目]を売却
2007年	テッセンダー・カーレイ(ベルギー)に除草剤ターバシルを売却 [デュボン(米)は同系統の除草剤プロマシルに集中] [広葉剤で11ヶ国に登録あり]
2007年	合弁会社デュボン・ファーム・ソリューション(日)[丸和バイオケミカル(日)25%]を解散し、デュボン(日)が原体販売を2008年1月から実施し、丸和バイオケミカル(日)が製品販売をする(12月)
2008年	シンジェンタ(スイス)と協調(新剤提供)に同意。デュボン(米)は、新殺虫剤シアジピルを提供し、単剤・混合剤の開発を認める。シンジェンタ(スイス)は除草剤メソトリオンを提供し、混合剤の開発を認める
2008年	エチグラ(米)[→2008年ニューファム(豪)に買収される]に棉用植調剤2種を売却。 スーパーボール(エテホン):棉の熟期促進 フリーフォール(チジアズロン)[子会社グリフィン取扱品目]:棉の落葉剤
2008年	ニューファム(豪)に棉用植調剤/落葉剤事業を売却 [コットンクイック(エテホン+AMADS)ファーストピック(エテホン+ウレアスルフェート), メベックス(メピコート・クロリド), ジン・アウト(メピコート・クロリド含有剤)]
2009年	発明した殺虫剤リナキシピル(クロラントラニリプロール)およびシアジピル(シアントラニリプロール)について米国化学会 [American Chemical Society] より賞を得た
2009年	殺虫剤クロラントリニプロール(商品名アセルプリン/芝用, プレバゾン/野菜用, サムコル/果樹用)が日本登録を取得した
2009年	テッセンダー・カーレイ(米)[親会社ベルギー]に除草剤リニロンを売却した。販売会社ノバソース(米)から販売予定 [2007年に除草剤ターバシルも買収済]
2009年	エンゲージ・アグロ(カナダ)を除草剤メツルフロム・メチル・プロマシル, カーメックス(DCMU), Telar(クロルスルフロム)の独占的ディストリビューターに任命した
2009年	バイエル(独)より除草剤の薬害軽減剤イソキサジフェンの使用許諾を得た
2010年	三井化学アグロ(日)の殺菌剤ベンチオピラド [商品名:Fontelis(果樹・野菜用), Tertisan(麦・大豆)の登録申請を米国, カナダ, EUで実施(2012年米国登録取得)]
2010年	UPL(印)に殺菌剤マンゼート(マンコゼブ)単剤の事業を売却 [混合剤は含まず]
2010年	バイエル(ポルトガル)に殺虫剤カラーゲン(クロラントリニリプロール)の販売権を与えた
2011年	マクシテム・アガン(イスラエル)に除草剤ジウロン(DCMU)単剤の事業を売却した [世界的な権利]
2011年	アグラクエスト(米)の生物殺菌剤パチルス・ブミルス(QSF2808)をフランスで開発する権利を得た(DPX-RN9-31)
2012年	シンジェンタ(スイス)に芝生用殺虫剤 Acelepryn(クロラントリニリプロール)の販売事業を売却した
2013年	全農(日)と水稲用殺虫剤 ZDI-2501 を共同開発(委託試験スタート)
2013年	シンジェンタ(スイス)に殺菌剤 oxathiapiprolin のライセンスを与えた。一方, 殺菌剤ソラテノール(ベンゾペンディピル)の開発権を得た

ニューファム (豪) [1957年設立]

2007年	中国化工集団ケムチャイナ(中)とブラック・ストーン(米)が、共同して買収を仕掛けて話し合いがなされたが、12月に白紙に戻った
2008年	A.H. マークス(英)を買収(3月)(Aus \$ 162.2 million) [除草剤2,4-D, MCPAの製造会社で2007年の売上 \$ 123 million]
2008年	エチグラ(米)[ジェネリック農薬会社で、芝生, 園芸, 非耕地に強く2007年の売上はUS \$ 34 million]を買収 [Aus \$ 74.2 million]
2008年	デュボン(米)から棉用植調剤/落葉剤事業を買収 [コットンクイック(エテホン+AMADS), ファーストピック(エテホン+ウレアスルフェート), メベックス(メピコート・クロリド), ジン・アウト(メピコート・クロリド含有剤)]
2008年	BASF(独)の除草剤ウイードマスター(2,4-D+ジカンバ)の米国の権利を買収(10月1日)
2009年	シノケム(中)との交渉は株当たりの価格を下げられたため中止し、住友化学(日)に株式20%を譲渡して農業事業の包括的提携を行う方向で具体的協議に入った(12月)[従業員 3,155人 売上げ2,142億円] [→2010年3月に株主の承認を得た]
2010年	住友化学(日)より5製品, ブラジルで販売できる権利を得, 9月より開始した [一部, カナダ, インドネシア等を含む]
2010年	BASF(独)の殺虫剤フィプロニルをブラジルで販売することに合意
2010年	シンジェンタ(スイス)の殺菌剤アゾキシストロピンとシプロコナゾールをブラジルで販売することに合意
2011年	住友化学(日)が買収(20%)
2012年	住友化学(日)との提携, イタリアを加えて19カ国になる
2012年	ニューファム・アメリカ(米)がクレアリー・ケミカル(米)を買収(12月)
2013年	BASF(独)品目を扱ってきたが、直販とされチャンネルを切られる

バ イ エ ル (独) [1863年設立]

2008年	子会社バイエル・クロップ・サイエンス(米)がBASF(独)より殺菌剤トリチコナゾールの供給を受ける [芝・園芸用分野]
2008年	プラント・ヘルス・ケアー(英)より殺虫・殺菌効果のあるハルピン プロテインの遺伝子利用技術を導入 [但し米国, カナダ, メキシコを除く地域]
2009年	アグログリーン(イスラエル)[ミンラブ(イスラエル)の子会社] より生物殺線虫剤バイオネム(バチルス・フィルムス)の技術を買収
2009年	クミアイ化学(日)より新除草剤サクラ(ピロキサスルフロンの)独占的開発・販売権を得た [豪州での販売開始予定は2011年]
2009年	アグラクエスト(米)より, 生物殺菌剤 QST-713(バチルス・ズブチリス)の家庭園芸用製剤の供給を受けて米国内で販売することとした [本剤はセレナードの商品名で10年売られている]
2009年	デュボン(米)に除草剤の薬害軽減剤イソジキサジフェンの使用を認めた
2010年	アグログリーン(イスラエル)より, 生物殺菌剤シエメールを買収
2010年	水稲用除草剤マイティーワン(テフリトリオン)が日本登録を取得
2010年	デュボン(米)より, 殺虫剤コラーゲン(クロラントリニリプロール)のポルトガルにおける販売権を得た
2010年	アンバック(米)に殺虫剤アズテック(テブピリムホス+シフルトリン)[米国登録あり] を売却(12月末)
2011年	大塚アグリテクノ(日)に水稲用除草剤ベンフレセートを売却(7月1日)
2011年	FMC(米)に殺菌剤ロブラール(イプロジオン)とスポルタック(プロクロアズ)を売却 [ヨーロッパを除く] [ロブラールは日本も除く]
2011年	コパート(蘭)に生物殺菌剤シエメール(酵母の一種)の独占的開発権を与えた
2012年	結城中央研究所(日)をアグロ・カネショウ(日)に譲渡(2012年1月)[敷地 29,000 m ²]
2012年	大塚アグリテクノ(日)に除草剤ベンゾフェナップを売却 [日本, オーストラリアで販売中] (1月)
2012年	テッセンダー・カーレイ(米)に殺虫剤セピン(カルバリール)事業を売却した(農業用)
2012年	アリスター・ライフサイエンス(日)に殺菌剤フルオキサストロピンを売却(世界の販売権)
2012年	アグラクエスト(米)[生物農薬開発会社] を買収(8月)
2013年	プロフィタ(独)[生物農薬開発会社] を買収(1月)

B A S F (独) [1865年設立]

2007年	テッセンダー・カーレイ(米)[親会社はテッセンダー・ロ(ベルギー)] の販売会社ノバソース(米)に昆虫忌避及び植物保護剤サラウンド(カオリン)[本剤はエンゲルハード(米)とUSDA(農務省)が共同開発し, 1999年に販売開始し, 20ヶ国以上で登録を保持している] を売却。アドバン(米)[三井化学(日)とシブカム(伊)の合弁会社] が扱っていたが, この決定により取扱い中止
2008年	バイエル(米)に殺菌剤トリチコナゾールを供給することに同意 [米国, カナダの芝, 園芸用分野]
2008年	ニューファム(米)に除草剤ウイードマスター(2,4-D + ジカンバ)の米国の権利を売却(10月)
2009年	アグラクエスト(米)より生物殺菌剤セレナード(バチルス・ズブチリス QST-713)の供給を受けて販売
2009年	バイエル(独)に野菜用種子殺菌剤コロネット(ボスカリド+ピラクロストロピン)とヌンヘムス(同じ組合せで, 玉ねぎ用)の米国での取扱いを認めた
2010年	明治製薬ファルマ(日)より, 新規殺虫剤 ME-5343 [北里研究所(日)と開発したアブラムシ, コナジラミ剤] のライセンスを得た [日本および中近東の一部の国を除いた世界]
2010年	コグニス(独)を親会社コグニス・ホールディング(ルクセンブルグ)より買収
2010年	ニューファム(豪)が殺虫剤フィプロニルをブラジルで販売することに同意
2011年	アフリカで農薬の直販体制スタート
2011年	アグラクエスト(米)と提携して生物殺菌剤セレナード(バチルス・ズブチリス)のブラジル登録を取得した(今後, 国を拡大する)
2012年	ケミノバ(デンマーク)に殺虫剤ソプラン(クレソキシムメチル)の米国における独占的販売権を与えた [自社のピラクロストロピンと競合するため]
2012年	ベッカー・アンダーウッド(米)[種子生物殺菌剤メーカー] を買収
2012年	オーストラリアで直販を決定 [今迄はニューファム(豪)を活用]
2013年	中国南通で農薬工場を建設中
2013年	ベトナムで直販体制に移行

マ ク テ シ ム ・ ア ガ ン (イスラエル) [親会社: ケムチャイナ(中)]

2007年	子会社プロフィコール(コロンビア)経由でアグロプロテクション(コロンビア/エクアドル)とアグロメディオ(コロンビア/エクアドル)を買収
2007年	デュボン(米)より除草剤フルオメツロン [子会社グリフィン(米)が販売していた] を買収
2008年	子会社マクシテム・アガン・ノースアメリカ(米)は, ケムチューラ(米)から棉用殺虫剤ダイヤモンド(ノバルロン)の販売権を取上げた。[2004年より販売]
2008年	株主クール・インダストリーズ(イスラエル)[39%保有] が持株の売却を考慮中 [1/2以下の予定]
2008年	ロキタ・アグロ(ポーランド)[除草剤2,4-Dを製造] の株式90%を親会社PCC(独)より買収
2008年	マガン・ユ(セルビア)[農薬ディストリビューター] を買収

2009年	エクソセクト(英)のIPM用フェロモン製品Exosexを7か国で販売する権利を獲得
2009年	クール・インダストリーズ(イスラエル)[親会社]が持株比率を41.5%から46.6%に上げた[マクシテム・アガン(イスラエル)自身は39.9%の株を保有]
2009年	シンジェンタ(スイス)より、殺菌剤アゾキシストロピンの供給を受け混合剤の開発に同意
2010年	フォーミュケム(蘭)より、ばれいしょの植付前発芽抑制剤タレント(カルボネ)の買収を計画したが中止
2010年	アルポー(米)[アタノール(アルゼンチン)を買収済のジェネリック会社]を買収
2010年	ケム・チャイナ(中)が経営権取得を計画(12月)[クール・インダストリーズ(イスラエル)から7%の買収は合意]
2011年	ケム・チャイナ(中)により買収(60%)、主要株主クール・インダストリーズ(イスラエル)[60%保有]も承認
2011年	デュボン(米)より除草剤ジウロン(DCMU)単剤の事業を買収した[世界的な権利]
2011年	ジェネリック殺虫剤フィプロニルの米国登録を取得した
2011年	イサグロ(伊)より、殺菌剤キララキシル(ベナラキシルM)の開発販売権を得た(北米、その他)
2011年	子会社クアリ・プロ[芝生園芸用の農業販売]を同じく子会社コントロール・ソリューション(米)に併合する
2011年	インド(グジャラート州)に、製剤・包装向上を建設
2013年	チリアグロ(チリ)を買収

モンサント(米)

2008年	シノケム・インターナショナル(中)の子会社シノケム・インターナショナル(シンガポール)に除草剤ブタクロールおよびアラクロールのインド、フィリピン、タイ、ベトナム、台湾、パキスタン、バングラデッシュの事業を売却(3月)。同時に子会社モンサント・インド(印)の除草剤ブタクロールおよびアラクロールの資産も売却[合計約\$8.4 million][シノケム(中)は、2003年から、これらの除草剤を独占的に扱っており、除草剤ラウンドアップ(グリホサート)も販売中]
2008年	種子処理分野に参入を計画[毎年1000 million lbs(453,600トン)の種子を処理し、売上は\$1500 million]。BASF(独)よりGM大豆用殺菌剤ピラクロストロピンの供給で協調
2008年	除草剤グリホサートの米国における生産量を20%増加の予定[除草剤ラウンドアップ耐性作物の植付増対応]
2008年	バイエル(独)より、種子処理用(Smart Stax トウモロコシ)の殺菌剤イブコナゾールを独占的に入手できることになった
2009年	プラント・ヘルス・ケア(PhC)(英)の植物活力剤ハルビン・プロテインを種子処理剤として利用する契約を締結(2013年契約解消)
2009年	BASF(独)とジカンバについて遺伝子工学利用作物(棉、大豆)の開発を共同して行うことで合意
2009年	デュボン(米)とバイオによる雑草・害虫管理技術のクロスライセンスを締結
2009年	バイオテクノロジー・リサーチ・センター(中:北京)を米国、ブラジル、インドに次いで開設
2009年	シンジェンタ(スイス)に世界におけるヒマワリ事業を\$160 millionで売却[2008年の売上は\$75 million]
2009年	BASF(独)よりGM棉種子殺菌剤ピラクロストロピンの供給を受けることに決定
2010年	除草剤ラウンドアップ(グリホサート)の製造設備の増強を完了した[2年\$2億投入][米国全体の使用量を供給]
2013年	住友化学(日)との提携拡大(除草剤フルミオキサジンの拡販でブラジル等にもおよぶ)
2013年	豪州の独占的販売権をニューファム(豪:2002年より)からシノケム(中)に変更した
2013年	アンバック(米)と除草剤(インパクト/トブラメゾン)の販売で協調
2013年	プラント・ヘルス・ケア(PhC)(英)の植物活力剤ハルビン・プロテインの利用契約を2009年に結んだが解約

U P L (United Phosphorous Ltd) (印)[1969年設立]

2007年	デュボン(米)より子会社グリフィン(米)取扱品目の殺ダニ剤バンデックス(フェンブタチン・オキシド)と殺菌剤スーパーチン(水酸化トリフェニール錳)を買収[世界の権利]
2007年	イコナ(アルゼンチン)[売上\$13 million, 35登録品目保有]を買収
2008年	保土谷化学(日)と合弁会社保土谷UPL(日)を設立(60:40)(3月3日)[日本の非耕地用農業を主とする]
2008年	エポファームス(コロンビア)[ジェネリック農業販売]を100%買収
2008年	ワイテ(英)より、ばれいしょ発芽抑制剤クロプロファムを買収
2008年	子会社UPL(米)が殺菌剤マンネブの再登録をあきらめるとEPAに報告[関連の殺菌剤マンコゼブは継続]
2008年	子会社保土谷UPL(日)が三共アグロ(日)より殺虫剤カルホス(イソキサチオン)の事業を買収(11月17日)
2010年	UPL・オーストラリア(豪)が石原産業(日)の新農業の販売で提携を強化
2010年	デュボン(米)より、殺菌剤マンゼート(マンコゼブ)単剤の事業を買収[混合剤を含まず]
2011年	ライスコ(米)を買収[1997年セダー(米)とウエストレード(米)の50:50の合弁で設立したが、2002年ウエストレード(米)分がグリフィン(米)に、さらに2004年プロフィコール(コロンビア)に移っている。親会社はマクシテム・アガン(イスラエル)][除草剤プロパニルが主要製品]
2011年	シプカム・イサグロ(ブラジル)[SIB][2006年イサグロ(伊)が50:50の合弁会社を設立]シプカム(伊)とイサグロ(伊)分の50%買収して、シプカムとUPL50:50の合弁会社とした。名称はシプカム・UPL・ブラジル(ブラジル)のとなる。
2011年	DVA・アグロ(独)の子会社DVA・アグロ・ブラジル(ブラジル、2005年設立)を買収(51%)
2012年	アグリケム(蘭)[Punjab Chemicals and Crop Protectionの子会社]を買収
2012年	SDアグリケム・ヨーロッパ(ベルギー)[Punjab Chemicals and Crop Protectionの子会社]を買収